

家族や一般来場者 プレゼン見守る

「貴重な経験」「刺激に」

前橋市で6日間開かれた「群馬イノベーションアワード（GIA）」のファイナリストには出場者の家族や友人のほか、一般県民も多く足を運んだ。情熱とアイデアを詰め込んだ真剣勝負の発表は共感を生み、会場の日本トータルグリーンドーム前橋は熱気に包まれた。



GIA
Gunma Innovation Award
2025

迫力の八木節
華やか幕開け

ステージは迫力の八木節
パフォーマンスで幕開け。
照明と音響で華やかにシヨ



ーアップされ、プレゼンテ
ーションを一層引き立て
た。
ファイナリストとして出



ファイナリストの発表を聞き、温かな拍手を送る来場者（広沢達也撮影）

場した高崎高2年の田嶋龍介さんの母、律子さん（48）は客席で発表を見守った。「こんな大きな舞台に立つなんて人生で貴重な経験」。入賞が伝えられると「本当に良かった。おめでとうと言いたい」とねぎらった。市立太田高3年の須永裕翔さんはメモを取りながら熱心に聞き入った。「群馬に根ざしたアイデアや、社会貢献を考えた内容が多かったのが印象的」と話し、同世代の発表にも刺激を受けた様子だ。

高崎市で焼き菓子などを販売する店を経営する大門崇志さん（30）は「思いをどうビジネスの『価値』につなげるかという視点が参考になる。共感しながら聞いていた」と話した。

発表後にはスポットワーク（スキマバイト）仲介サービスを手がける「タイミ」の小川領社長の特講

演が行われた。夫と訪れた同市の会社員、柄沢瞳さん（37）は「小川さんの創造性や情熱を聞くことができ、とても良かった」と満足そうに話した。

GIAは2013年のスタートから13回目となり、

県民の間に着実に浸透している。同市の会社員、田端陽子さん（54）は「GIAに来るたびに刺激を受け、私も頑張ろうという気持ちになる」。毎年訪れている前橋市の代田玲子さん（82）も起業家を発掘するという趣

旨に魅力を感じるとし「私にとっては社会がどう変わっていくのか、こんなに面白い世界があるんだと教えてくれるイベントです」と目を輝かせた。

（真下達也）